

## 編集後記

コロナ禍のイタリア

2021年の8月からイタリアに滞在しているが、これを書いている12月23日の時点では、イタリアは、コロナの新型変異種オミクロンに最も抵抗力をもって持ちこたえている国となっている。2020年にコロナで最も打撃を受けた国だったことを思うと大きな変容ぶりと言えよう。

要因は複合的だろうが、一つにはドラギ政権が、EU諸国に先駆けてグリーンパスを働く人に義務化し、ワクチン接種率が上がったことがある。12月時点では、政府は大人には3回目の接種を積極的に推進しているし、5-11歳の子供への接種も開始した。

またフィレンツェ大関係者の話では、イタリアではロックダウンの間に、大学もコムネ（市役所）にも職員が出勤できないので、この間に大いにデジタル化が進んだ、進まざるを得なかったとのこと。日本がコロナの被害が相対的に小さかったのは幸いだが、そのためにデジタル化の進展が遅滞として進んでいないことを思うと複雑な思いが交錯する。「イタリア人はむずかしいことは出来る、やさしいことは苦手」というフィレンツェ大S教授の言葉が印象的だった。イタリアでも日本でもザル法というものはあるわけだが、僕の経験する限り、今フィレンツェで（おそらくは他の都市でも）どのバー、レストランに行っても屋内に座ればグリーンパスの提示を求められる。電車内でも劇場内でもマスクから鼻が出ていると、車掌や係員に注意される。ごく一部の人の反対運動は別として、町ではそのルールに大半の人が従っているのが現状である。 M. T.

## 編集委員会

伊藤拓真 奥田耕一郎 亀崎 勝 小林 勝 白崎容子 高橋利安  
辻 昌宏 西村安弘 濱口オサミ 福山佑子 古田耕史 三森のぞみ